

平成 22 年度決算報告書



株式会社エフエム東京

平成 23 年 5 月 31 日

報道各位

株式会社エフエム東京

平成 22 年度業績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、依然として厳しい雇用・所得環境が続く一方で、新興国を中心とした海外需要の増加やエコカー補助金、エコポイント等の景気刺激策の効果等により企業収益が改善し、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかし、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災はわが国に未曾有の人的・物的被害をもたらし、今後のわが国経済への深刻な影響が懸念されております。

広告市場においては、平成 22 年の日本の総広告費（㈱電通推定）が 5 兆 8 千 427 億円（前年比 1.3%減）と 3 年連続の減少となり、新聞・雑誌・テレビ・ラジオの所謂マスコミ 4 媒体の広告費については前年比 1.9%減で 6 年連続の減少となりました。内訳では、テレビ広告費がスポット広告の好況を背景に前年比 1.1%増と 6 年ぶりに増加に転じた一方、ラジオ広告費については下期に回復の兆しが見えたものの上期の低迷の影響が大きく、年間では前年比 5.2%減となりました。

このような状況の中、当連結会計年度の当社グループの売上高は 181 億 2 百万円（前期比 10.8%減）、営業利益は 6 億 1 千 7 百万円（前期比 15.4%減）、経常利益は 6 億 2 千 3 百万円（前期比 6.8%減）、当期純利益は 4 億 7 千 7 百万円（前期比 12.7%減）となりました。

当社単体の業績につきましては、売上高が 130 億 6 千 1 百万円（前期比 1.7%減）、営業利益が 5 億 7 千 8 百万円（前期比 17.7%減）、経常利益は 5 億 5 千 7 百万円（前期比 19.5%減）、当期純利益は 4 億 1 千 9 百万円（前期比 35.4%減）となりました。

〈放送事業活動〉

放送事業活動においては、開局 40 周年の節目の年を迎え、ステーションアイデンティティのさらなる明確化を図るため、「新しい発見と共感性」のある番組編成を目指しました。4 月および 10 月の番組改編では、平日ワイドを中心に大幅な刷新を行い、午前帯から夜 10 時までの広範囲な時間帯で多彩な出演者を配して新番組をスタートさせました。中でも新しい社会的価値を醸成するコンテンツとして、前年度に立ち上げた農業への夢とロマンを啓発する番組「あぐりずむ」に続き、母親と子供が共に楽しめる朗読企画「よ・み・き・か・せ」を編成しました。10 月改編においては、東京の街とそこに暮らす人々の様々な価値観を浮き彫りにする新番組「シンクロシティ」（月～木曜 16:00～18:45）をスタート。続く時間のニュースワイド番組「タイムライン」（月～木曜 18:45～19:45）は放送時間を拡大、報道の強化をしました。また心地良い選曲で早朝を演出するクラシックワイド番組「SYMPHONIA」（月～木曜 早朝 4:00～6:00）、土曜の夕方に J-POP のプレミアムなライブセッションを届ける生放送番組「“Good Luck” LIVE」（土曜 16:00～16:55）を新設す

る等、多様化するリスナーの嗜好性に合わせた音楽プログラムを編成しました。

4月26日の開局40周年記念としてスペシャルウィークを設け、YMO、松任谷由実、山下達郎など当社に関係の深い大物アーティスト達の過去の貴重なライブ音源を活用した40年の軌跡を辿る特別企画番組や、世界的ピアニスト横山幸雄が、生誕200年となるショパンのピアノソロ166曲完奏に挑戦したコンサートの16時間完全中継、また桑田佳祐による4時間アコースティック・スタジオライブの放送等を実施し、その企画性が大きな話題を集めました。

FM FESTIVALでは、これからの日本を担う大学生を対象に、「FM FESTIVAL 2011 未来授業 ～明日の日本人たちへ～」を実施。姜尚中氏、養老孟司氏、北野大氏を講師に招き、公開授業形式で学生たちと10年後の日本について探求しました。この模様は、茂木健一郎氏の総合司会による特別番組としてJFN38局ネットで放送され(2月11日 16:00~18:00)、ビデオポッドキャストも大きな反響を呼びました。

番組連動のクロスメディア展開においては、当社が1977年に収録・放送した、カラヤンとベルリンフィルによるベートーベン交響曲全曲演奏会をCD化し一挙5枚シリーズとして発売したほか、番組パーソナリティの村上隆氏デザインによる高級オリジナルG-SHOCKの限定発売、前述の桑田佳祐ライブ音源の携帯電話向け配信など、様々な商品開発を実現しました。

「V-Low マルチメディア放送」に関しては、平成23年1月総務省により「V-Low マルチメディア放送の参入希望調査」が実施され、当社はアナログサイマル放送の実施希望を提出すると共に、平成21年10月に設立した東京マルチメディア放送株式会社として、3セグメント放送方式を前提に委託放送事業への参入希望を提出しました。受託放送事業においても、様々な企業と連携し新会社を設立、参入したい旨の希望を提出しました。平成25年でのスタートへ向け、地域情報や防災機能など社会的意義を念頭に置いた新しい放送モデルの確立を追求してまいります。

3月11日に発生した「東日本大震災」に関しましては、震災発生直後から1週間、全ての番組においてCM、提供クレジットを全面休止とする特別番組を編成、メディアの公共的役割を果たすと共に当社の理念である「ヒューマンコンシャス ～生命を愛し、つながる心」の実践に徹した放送を行い、様々なメディア、特にソーシャルメディアで大きな反響を呼び、高く評価されました。

当社では、震災報道を3つの段階に分け、まず第1段階では、震災直後の対応として被災地ネット局と連携し災害直接情報を発信しました。被災者の目線を最優先し「命」を大切にしつつ、同時に原発事故の状況を一般リスナーにも分かり易く伝えてまいりました。また、情報入手が困難な被災地のために、パナソニック株式会社のご協力を得て、ラジオ1,700台を岩手、宮城、福島に届けました。また被災3県にあるネット局に対して放送継続のために救援物資を届けるなど様々な支援を行いました。あわせて、被災者のこころのケアを目的に、全国のリスナー、特に被災者からのメッセージと心に響く選曲をお届けすると共に、桑田佳祐や福山雅治など多くのアーティストや有名人からの励ましのメッセージの紹

介や、ライブ演奏で被災者を勇気づける放送を行いました。中でも、被災地の子供たちのために震災翌日に放送した「アンパンマンのマーチ」は、子供だけでなく多くの大人の心にも響き、大きな話題を呼びました。

第2段階では復旧への道程の中で、ネット局の要請を受け、FM 岩手釜石支局のサテライト・スタジオ開設や、釜石市の臨時災害 FM 局開設に機材・スタッフを提供して被災地向け情報の発信を支援しました。更に、災害報道においてラジオが再評価される中、3月28日より当社をキー局に JFN38 局、東北地区中波3局及び16のコミュニティ FM 局を結ぶ新番組「震災情報 官邸発」（月～日曜 19:55～20:00）をスタート。震災と原発に関する最新情報を枝野官房長官自ら語りかける唯一の番組を編成しました。

第3段階として、復興に向けて、被災者のこころと身体のケアを支援する「ヒューマンケア・プロジェクト」を発足、医師、トレーナー、看護師、心理カウンセラーなどの専門家チームによるアドバイス、支援活動を、番組だけではなく実際に被災地に出向き、放送と連動させた活動に取り組み始めています。4月以降も長期的視野に立ち、震災後の復興を支え被災者支援となる様々な展開を継続実施して参ります。

〈企画・制作事業活動〉

企画・制作事業においては、開局40周年記念イベントとして、4月に「神の声」とも評されるアンドレア・ボチェッリの武道館コンサート、5月に「横山幸雄ショパン・プロジェクト」、7月に名門オペラハウス トリノ王立歌劇場の初来日公演を実施しました。9月には、番組「JET STREAM」をステージで再現するコンサート「JET STREAM ～Music Around the World」を、大沢たかおのナビゲートで開催。11月には「世界遺産劇場 上賀茂神社コンサート」を実施、12月には、10年ぶりの公演となる「竹内まりや LIVE 2010 Souvenir Again」を実施しました。また西本智実指揮による「夢の第九コンサート in 武道館」では、4千名の合唱参加者が半年間の練習の成果を披露しました。

毎年恒例の4月22日「アースデー・コンサート」では、東京スカパラダイスオーケストラ、AKB48、山崎まさよし等、世代やジャンルを超えたアーティストが参加、この模様を世界36カ国に向けて5カ国語で放送し、「アースコンシャス ～地球を愛し、感じるこころ」の理念を発信しました。また厚生労働省の後援や日本医師会などの賛同を得て「HelloSmile PROJECT（子宮頸がん予防啓発プロジェクト）」を実施、「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」の理念を具現化しました。

映画の分野では、往年の人気アニメを木村拓哉主演で実写化した話題作「SPACE BATTLESHIP ヤマト」の製作に参画、観客動員数320万人を超えるヒットを記録しました。

〈インフォメーションプロバイダー事業活動〉

当社連結子会社ジグノシステムジャパン株式会社では、主力事業である携帯電話向けモバイルコンテンツ事業において、同社が得意とするアート系コンテンツおよびゲーム開発に

重点的に取り組みました。特にゲーム分野については、キャリアの公式サイト展開に加えて mixi、GREE といったソーシャル系サービスへのアプリの提供を開始、売上を大きく伸ばしました。また、自社開発の iPhone アプリ「江頭 2:50 オレが時計だ」が半年で累計5万ダウンロードを記録するなど、新たな成長分野として期待されるスマートフォン向けアプリ開発を本格的に開始しました。

一方、ソリューション事業においては、映画配給会社のモバイル向け宣伝展開や食品会社の企業ホームページおよび携帯サイトの同時開発など受託案件の拡大に努めました。

〈賃貸事業活動〉

オフィスビル JFN センター、メディアセンター等の賃貸事業を展開いたしました。

〈その他の事業活動〉

創立 25 年を迎えた TOKYO FM 少年合唱団は、サントリーホール等で行われた「マリス・ヤンソンス指揮 ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団公演」への出演、各種テレビ CM 音声の収録等、多彩な活動を行いました。その他、直営店舗によるレストラン事業を展開いたしました。

以上

前期比較損益計算書（連結）

平成22年4月1日～平成23年3月31日

（単位：千円）

勘定科目	平成23年3月期 (H22. 4. 1～H23. 3. 31)	平成22年3月期 (H21. 4. 1～H22. 3. 31)	前期比
売上高	18,102,335	20,291,604	89.2%
売上原価	11,738,059	13,555,319	86.6%
売上総利益	6,364,276	6,736,285	94.5%
販売費及び一般管理費	5,747,179	6,006,466	95.7%
（内のれん償却額）	92,300	102,876	89.7%
営業利益	617,096	729,818	84.6%
（売上高営業利益率）	3.4%	3.6%	
営業外収益	178,880	132,183	135.3%
営業外費用	172,447	192,924	89.4%
経常利益	623,528	669,077	93.2%
（売上高経常利益率）	3.4%	3.3%	
特別利益	763,791	124,093	615.5%
特別損失	580,260	272,623	212.8%
税金等調整前当期純利益	807,059	520,547	155.0%
法人税、住民税及び事業税	210,200	18,281	1149.8%
法人税等調整額		△ 5,232	—
少数株主損益等調整前当期純利益	562,907	507,498	110.9%
少数株主利益	85,209	△ 39,568	—
当期純利益	477,698	547,067	87.3%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前期比較損益計算書（当社単体）

平成22年4月1日～平成23年3月31日

（単位：千円）

勘定科目	平成23年3月期 (H22. 4. 1～H23. 3. 31)	平成22年3月期 (H21. 4. 1～H22. 3. 31)	前期比
売上高	13,061,840	13,282,539	98.3%
売上原価	8,595,608	8,686,458	99.0%
売上総利益	4,466,231	4,596,080	97.2%
販売費及び一般管理費	3,888,130	3,893,486	99.9%
営業利益	578,101	702,594	82.3%
（売上高営業利益率）	4.4%	5.3%	
営業外収益	114,694	134,769	85.1%
営業外費用	135,675	145,074	93.5%
経常利益	557,120	692,289	80.5%
（売上高経常利益率）	4.3%	5.2%	
特別利益	51,693	81,537	63.4%
特別損失	81,606	138,994	58.7%
税引前当期純利益	527,207	634,831	83.0%
法人税、住民税及び事業税	5,140	5,140	100.0%
法人税等調整額	102,477	△ 19,609	—
当期純利益	419,590	649,301	64.6%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前期比較売上高内訳書(当社単体)

平成22年4月1日～平成23年3月31日

(単位:千円)

	平成23年3月期 (H22.4.1～H23.3.31)	平成22年3月期 (H21.4.1～H22.3.31)	前期比
売上高	13,061,840	13,282,539	98.3%
放送事業収入	11,396,798	11,800,561	96.6%
放送収入	7,883,688	8,007,746	98.5%
タイム放送料	5,737,542	5,946,247	96.5%
スポット放送料	2,146,145	2,061,499	104.1%
制作収入	1,921,221	1,894,531	101.4%
その他	1,591,889	1,898,282	83.9%
企画事業収入	1,005,564	774,584	129.8%
賃貸事業収入	552,082	561,849	98.3%
その他事業収入	107,395	145,543	73.8%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

46期(通期)広告会社取り扱い順位

<総合順位>

46期	45期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツー ディ・ケイ
4	4	ビデオプロモーション
5	13	東急エージェンシー
6	6	京橋エージェンシー
7	9	読売エージェンシー
8	7	三晃社
9	5	オフィスフラッグス
10	12	放送文化事業

<タイム>

46期	45期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	4	アサツー ディ・ケイ
4	3	ビデオプロモーション
5	10	東急エージェンシー
6	6	読売エージェンシー
7	5	オリコム
8	8	コスモ・コミュニケーションズ
9	7	オフィスフラッグス
10	12	第一通信社

<スポット>

46期	45期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	4	京橋エージェンシー
4	3	三晃社
5	5	アサツー ディ・ケイ
6	6	放送文化事業
7	8	毎日広告社
8	10	ビデオプロモーション
9	14	東急エージェンシー
10	20	クオラス

平成23年3月期決算短信

平成23年5月31日

会社名 株式会社 エフエム東京

URL <http://www.tfm.co.jp>

代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富木田 道臣

問合せ先責任者(役職名) 執行役員総務局長 (氏名) 村上 正光 TEL (03) 3221-0080

定時株主総会開催予定日 平成23年6月28日 配当支払開始予定日 平成23年6月29日

(百万円未満切捨て)

1. 23年3月の連結業績 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期	18,102	△ 10.8	617	△ 15.4	623	△ 6.8	477	△ 12.7
22年3月期	20,291	△ 11.0	729	42.1	669	51.9	547	33.2

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
23年3月期	533 18	— —	2.0	1.6	3.4
22年3月期	610 60	— —	2.3	1.8	3.6

(参考) 持分法投資損益 23年3月期 92百万円 22年3月期 12百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期	38,230	24,256	62.7	26,762 99
22年3月期	37,420	23,935	63.3	26,417 89

(参考) 自己資本 23年3月期 23,978百万円 22年3月期 23,669百万円

2. 配当の状況

	年間配当金			配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率(連結)
	中間期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
22年3月期	30 00	45 00	75 00	67	12.3	0.3
23年3月期	30 00	30 00	60 00	54	11.3	0.2
24年3月期 (予想)	30 00	30 00	60 00			

(注) 22年3月期 期末配当金の内訳 普通配当 30円00銭 開局40周年記念特別配当 15円00銭

3. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む) 23年3月期 900,000株 22年3月期 900,000株
② 期末自己株式数 23年3月期 4,057株 22年3月期 4,045株

(参考) 個別業績の概要

1. 23年3月期の個別業績 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期	13,061	△ 1.7	578	△ 17.7	557	△ 19.5	419	△ 35.4
22年3月期	13,282	△ 11.9	702	△ 17.7	692	△ 33.7	649	△ 44.2

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
23年3月期	466	21	—	—
22年3月期	721	45	—	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円	銭
23年3月期	36,711		24,913		67.9		27,681	37
22年3月期	36,109		24,670		68.3		27,411	75